

日本語文法2

引用節

引用の「と」

- ・「～と言う」や「～と思う」は『引用』を表わす文法
- ・「～と言う／思う」の助詞『と』→「引用の『と』」
- ・引用→言ったことや思ったことをもう一度述べる表現
 - ✓ 言ったことを引用する表現形式→「～と言う」
 - ✓ 思ったことを引用する表現形式→「～と思う」

引用の「と」への接続

- ・ [名詞] + **だ** + 『と』 例) 失敗だと／問題だと
- ・ [動詞] **×** + 『と』 例) 行くと／やめると
- ・ [い形容詞] **×** + 『と』 例) 大きいと／若いと
- ・ [な形容詞] + **だ** + 『と』 例) 立派だと／きれいだと
 - ✓ 「い形容詞」には「だ」をつける
 - ✓ 「な形容詞」には「だ」をつける
 - ✓ カギカッコに続く場合は「だ」は不要

引用の「と」の用法

- ・引用の「と」 → 格助詞なので文の中で使われる
 - ・台湾は暑いと思う。
- ・引用の「と」 → 文末や複数の文の後でも使える
 - ・私は思う。今のままでは今のままでと。
 - ・私はこう考える。学生は勉強しないから文法ができないのではない。勉強してもできないのだと。
引用 (考え方)

引用の「って」

- ・「～と言う／思う」の助詞『と』 → 「引用の『と』」
- ・くだけた会話では『と』が『って』となる（詳細後述）
- ・書きことばやていねいな会話では使えないで注意
 - ・また月曜日に来るって言っていました。
 - ・また月曜日に来る と言っていました。
 - ・今そのままではダメだなって思うんです。
 - ・今そのままではダメだな と思うんです。

～と言う

「～と言う」

- ・言ったことを引用する表現形式
- ・『と』の前に〈自分や他人が一度言ったこと〉を述べる
 - ✓弟が「腹へった。」と言う。
- ・「～と言った」（＝過去時制）で使用されることも多い
 - ✓弟が「腹へった。」言った。
- ・「～と言っている」のようにテイル形でも用いる（後述）

「～と言う」と「～と言った」

- ・「～と言う」
 - ✓習慣的な発言（いつも言う／よく言う）
 - ・先生は私がバカだと言う。
→何度も言われた（これからも言われるだろう）
- ・「～と言った」
 - ✓一回的な発言（ある時言った／言ったことがある）
 - ・先生は私がバカだと言った。
→ある時に（一度だけ）言われたことがある

一般論を表わす「～と言う」

- ・「～と言う」→一般論や多数意見を表わすことがある
- ✓ 語学は反復練習が重要だと言う。
 - [多くの人が] 語学は反復練習が重要だと言う。
- ◆主語（多数者／みんな）は省略されることも多い
- ・受け身形（「～と言われる」）でも同じ意味を表わす
- ✓ 語学は反復練習が重要だと言われる。

直接話法と間接話法

- ・「～と言う／言った」→言ったことを引用する表現形式
- ・『直接話法』の用法と『間接話法』の用法がある
- ✓ 直接話法→言ったことをそのまま引用する
 - ・Qさんは「金をくれ！金をくれ！」と言う。
- ✓ 間接話法→言った内容を整理して引用する
 - ・Qさんはお金がほしいと言う。

直接話法—「『～』と言う」

・言ったことをそのまま引用する：事実の伝達が目的

・引用はカギカッコで括って示す

・彼は「台北に遊びに行ってきます」と言った。

・彼は「月曜日に来てください」と言った。

・彼は「ちゃんと仕事をしろ！」と言った。

・彼は「いつがいいですか？」と言った。

・彼は「それって、本当か？」と言った。

直接話法の表記

・直接話法では引用の部分を必ずカギカッコでくる

・カギカッコの中が文の場合は末尾に「。」をつける

✓ 彼は「これから台北に行きます。」と言った。

・カギカッコの中が語や語句の場合には「。」は不要

✓ 彼は「明日」と言った。

・カギカッコの中の文が短いときは「。」は特に不要

✓ 彼は「ありがとう」と言った。

間接話法—「～と言う」

・言った内容を整理して引用する：情報の提供が目的

・引用にはカギカッコを使わない

- ・彼は、台北に遊びに行ってくると言った。
- ・彼は、月曜日に来てほしいと言った。
- ・彼は、きちんと仕事をするように言った。
- ・彼は、いつがいいかと言った。
- ・彼は、それは本当なのかと言った。

直接話法と間接話法の違い

・直接話法は、話したことをそのまま書けばよい

・間接話法では、以下の点で直接話法とは異なる

- ✓ 「と」の前は必ず普通体（常体）にする
- ✓ 名詞・な形容詞の場合「～だと」とする
- ✓ 口語表現は、書きことばの表現にかえる
- ✓ 依頼・指示を表わす表現→「～ように言う」
- ✓ 命令を表わす表現→「… [命令形] と言う」
- ✓ 希望を表わす表現→「～してほしいと言う」

間接話法への書き換え(1)

- ・「と」の前は必ず普通体（常体）にする
- ・直接話法：兄は「神戸に行きます。」と言いました。
- 間接話法：兄は、神戸に行くと言いました。
- ・~~兄は、神戸に行きますと言いました。~~
- ・名詞・な形容詞の場合「～だと」とする
- ・直接話法：彼女は絵を見て「きれい」と言った。
- 間接話法：彼女は絵を見て、きれいだと言った。

間接話法への書き換え(2)

- ・口語表現は、書きことばの表現にかえる
- ・直接話法：彼は「このまんじゃマズいぞ。」と言った。
- 間接話法：彼は、今のままではいけないと言った。
- ・直接話法：カレーを食べて「マジうめえ」と言った。
- 間接話法：カレーを食べて、とてもおいしいと言った。
- ・直接話法：弟が「ビビってんじゃねえぞ」と言った。
- 間接話法：弟が、怖じ気づくなと言った。

間接話法への書き換え(3)

- ・依頼・指示を表わす表現→「～ように言う」
 - ・直接話法：先生が「研究室に来てくれ。」と言いました。
→間接話法：先生が、研究室に来るように言いました。
- ・命令を表わす表現→「… [命令形] と言う」
 - ・直接話法：彼は「おい、早く食べよ！」と言った。
→間接話法：彼は、早く食べろと言った。
- ・依頼・指示・命令の違いは強さの度合なので、間接話法では話し手の解釈によって依頼を命令で表わすような場合もある

間接話法への書き換え(4)

- ・希望・願望を表わす表現→「～してほしいと言う」
 - ・直接話法：
 - ・学生が「作文を見てもらえませんか。」と言った。
→間接話法：学生が、作文を見てほしいと言った。
 - ・直接話法：
 - ・学生が「合格させてください。 お願いです。」と言った。
→間接話法：学生が、合格させてほしいと言った。

間接話法と日時の表現

- ・間接話法では日時の表現に注意する

✓ 直接話法→引用する語の話された時点が基準

- ・昨日の天気予報で「**明日**は雨です。」と言った。

▶ 《昨日》が基準となる→「明日」

✓ 間接話法→いまここで話している時点が基準

- ・昨日の天気予報で、「**今日**は雨だと言った。

▶ 《いま》が基準となる→「今日」

練習問題 1

- ・次の文を間接話法の文に書き換えなさい。

- ・彼女は「これから食事をします。」と言った。

→ _____

- ・先生が「黒板を見て」と言った。

→ _____

- ・ゼンさんは「返事を書いてね」と言いました。

→ _____

練習問題1 (正答例)

- 次の文を間接話法の文に書き換えなさい。
 - 彼女は「これから食事をします。」と言った。
→彼女は、これから食事をすると言った。
 - 先生が「黒板を見て」と言った。
→先生が黒板を見るように言った。
 - ゼンさんは「返事を書いてね」と言いました。
→ゼンさんは返事を書いてほしいと言いました。

練習問題2

- 次の文を正しい文に書き換えなさい。
 - イムさんは、台湾の果物はおいしいですと言いました。
→_____
 - ユミちゃんは、頭のいい人が好きと言った。
→_____
 - おじさんが、とっとと逃げろや！と言いました。
→_____

練習問題2 (正答例)

・次の文を正しい文に書き換えなさい。

・イムさんは、台湾の果物はおいしいですと言いました。

→イムさんは、台湾の果物はおいしいと言いました。

・ユミちゃんは、頭のいい人が好きと言った。

→ユミちゃんは、頭のいい人が好きだと言った。

・おじさんが、とっとと逃げろや！と言いました。

→おじさんが、早く逃げるようにと言いました。

→おじさんが、早く逃げろと言いました。

「～と言っている」

・「～と言っている（～ています）」には2つの意味がある

・**先生がバイクはダメだと言っている。**

・今現在、発言の途中である場合

✓ 〈言う〉行為が今も継続していることを示す

▶ 「先生」は今ここにいる (話の場面に現前)

・先生のメッセージを伝える場合

✓ 他人の発言の内容を事実として報告している

▶ 「先生」は今ここにいない (話の場面に不在)

先生がバイクはダメだと言っている。

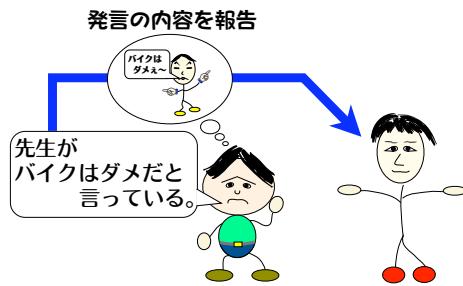


先生がバイクはダメだと言っている。

現在、発言の途中

先生は場面に存在

意味①



発言の内容の報告

先生は場面に不在

意味②

「～と言っていた」

- ・「～と言っていた」は、一般に『報告』の意味で用いる
- ・「～と言っている（ています）」
 - ✓ 報告の内容が現在（または未来）の状況と関係する
 - ・王くんが部屋に来てほしいと言っている。
→王くんは現在部屋で待っている
- ・「～と言っていた（ていました）」
 - ✓ 報告の内容は現在（または未来）の状況と関係しない
 - ・王くんが部屋に来てほしいと言っていた。
→王くんが現在部屋で待っているかは不明

発言の内容を報告する表現

・他人の発言の内容を事実として第三者に報告するとき

- ・「～と言っている」「～と言っていた」が自然な表現
 - ・◎陳さんは、イベントには参加しないと言っている。
 - ・◎然くんは、4級に合格してうれしいと言っていた。
- ・「～と言った」では日本語として不自然な表現となる
 - ・？陳さんは、イベントには参加しないと言った。
 - ・？然くんは、4級に合格してうれしいと言った。

→発言の内容の報告としては子どもっぽい表現である

「～と言った」と「～と言っている」

・「～と言った」

- ・発言の事実の記述（単純に事実を述べるだけ）
 - ・陳さんは力ゼだと言った。（→×含意なし）
 - ・林さんが遅れると言った。（→×含意なし）

・「～と言っている」

- ・発言の内容の報告（事実以外の内容も伝える）
 - ・陳さんは力ゼだと言っている。（→だから欠席する）
 - ・林さんが遅れると言っている。（→どうしよう……）

語形と用法の整理

- ・「～と言う」
 - ・発言の事実の記述 (習慣的：いつもそう言う)
- ・「～と言った」
 - ・発言の事実の記述 (一回的：あるとき言った)
- ・「～と言っている」
 - ・(発言の事実の記述) / 発言の内容の報告 (現状と関連)
- ・「～と言っていた」
 - ・発言の内容の報告 (現状との関連なし)

「～と言う」と「～と話す」

- ・言う：あらゆる発言 (短～長)について用いる
- ・話す：まとまった内容の発言について用いる
 - ✓ おはようと言う。 / *おはようと話す。
 - ✓ 自分の考えを言う。 / 自分の考えを話す。
- ・言う→会話の意味はない / 話す→会話の意味がある
 - ✓ 二人の人が言っている。 →別々に発言している
 - ✓ 二人の人が話している。 →会話をしている意味

「～と言う」と「～と話す」

・まとめた内容の場合、書きことばでは「話す」を使う

- ✓ 首相は、友好関係の構築が重要だと話した。
- ✓ 首相は、友好関係の構築が重要だと話しました。
- ？首相は、友好関係の構築が重要だと言った。
- ？首相は、友好関係の構築が重要だと言いました。

・文末に口語的な表現を含む場合などは「言う」でもよい

- ✓ 首相は、友好関係の構築が重要だと言ったんです。
- ✓ 首相は、友好関係の構築が重要だと言いましたね。

練習問題3

・次の4つの文の意味の違いを説明しなさい。

- ・先生が勉強するように言う。
- ・先生が勉強するように言った。
- ・先生が勉強するように言っている。
- ・先生が勉強するように言っていた。

解答省略

「～と言う」の関連表現

主体の表示の省略

- ・文脈によって明らかな場合、話す主体の表示が省略される

- ✓ ビールは2本までと言ったのに、5本も飲んだ。
 - 私が
 - 彼は
- ✓ Qさんに2本までと言われたので、残りは自分で払った。
 - 私は
 - 私が
- ✓ 勉強するように言ったのに、できなかったと言っている。
 - 私が
 - 彼は
- ✓ 具合が悪いと言うので、早く帰るように言った。
 - 彼が
 - 私は

「～と言える」

- ・「～と言える」→意見を正しいものとして主張する表現
- ・新聞、論文などの硬い書きことばでしばしば用いられる
 - ✓ 世界経済は緩やかながら回復に向かっていると言える。
- ・「～と言えるだろう」「～と言ってよい」「～と言えよう」「～と言って差しつかえない」なども同じ意味で用いる
 - ✓ 韓国選手の優勝は、長年の強化の成果だと言ってよい。
 - ✓ 飛騨牛は日本で最上の牛肉だと言って差しつかえない。

「～と言うか」

- ・「～と言うか」→はっきりした断定や判断を避ける表現
 - ・Aと言うかBと言うか
 - ✓ 慎重だと言うか臆病だと言うか。
 - ・Aと言うか（何と言うか）
 - ✓ 情けないと言うか（何と言うか）。
 - ・と言うか（他の人の発言を受けて使う）
 - ✓ 「クールな人だね。」「と言うか、暗いだけだよ。」
 - ➔ 「ていうか」「ちゅうか」などとも発音される

[名詞1] という [名詞2]

- ・[名詞1] という [名詞2] →個別化／一般化する表現
- ・[名詞1 (→個別例)] という [名詞2 (→カテゴリー)]
 - ・個別化する用法 … [名詞1] 未知・ [名詞2] 既知
 - ✓ 育達という大学に通っている。
→多数ある『大学』を『育達大学』に特定する
 - ・一般化する用法 … [名詞1] 既知・ [名詞2] 既知
 - ✓ あなたという人はどこまで冷たいんだ。
→『あなた』を『人』の一種として位置づける

「～というのは」

- ・「～というのは」 →語の定義や詳しい説明を述べる表現
 - ✓ 奢侈家というのはケチな人のことだ。 [定義]
 - ✓ 現実というのはいつも厳しいものだ。 [説明]
- ・疑問文では説明や定義を求める表現となる
 - ✓ 陋習というのはどういう意味ですか。 [定義を求める]
 - ✓ 働くというのはどういうことですか。 [説明を求める]

「～ということだ」

- ・「～ということだ」 → ① 伝聞 / ② 要約を表わす表現
- ・伝聞を表わす「～ということだ」
 - ✓ カトリーヌさんが結婚したということだ。
 - ➡ カトリーヌさんが結婚したそうだ。
- ・要約を表わす「～ということだ」
 - ✓ 今のお話は、景気対策が最も重要だということですね。
 - ✓ 原案のまま決定するということでよろしいでしょうか。

「～というものだ」

- ・「～というものだ」 → 強い断定や当然の判断を述べる表現
- ✓ とにかく勉強するのが大学生というものだ。
- ✓ 思い通りにいかないのが人生というものだ。
- ✓ 30年間休まずに働いた会社を解雇されたそうだ。それではあまりに気の毒というものだ。
- ✓ みんなが喜んで使ってくれた。時間をかけて作った意味もあるというものだ。
- ◆ 名詞が先行する場合も「[名詞] と」の形になる

[文] という [名詞]

- ・[文] という [名詞] →文で名詞の内容を説明する表現
- ・行方不明の3人が無事発見されたという連絡があった。
 - ・名詞『連絡』の内容を文で説明している
- ・大きな船ほど船体の重量が重くなるという問題がある。
 - ・名詞『問題』の内容を文で説明している
- ・【名詞】の部分が『の』で代用されることもある
 - ・彼女が宝くじに当選したというのは本当だ。
→彼女が宝くじに当選したという【話／噂】は本当だ。

～と思う

「～と思う」

- ・思ったことや考えたことを引用する表現形式
- ・『と』の前に〈自分が思った／考えた内容〉を述べる
 - ✓私は、日本語は簡単だと思う。
- ・他人の思考については、「～と思っている」で表わす
 - ✓彼は、日本語は難しいと思っている。
- ◆人称によって「と思う」と「と思っている」を使い分ける

「～と思う」と「～と思っている」

- ・「～と思う」
 - ✓自分の思考（一人称主語）
 - ・（私は）社長はバカだと思う。（→主語を省略する）
 - ・彼は社長はバカだと思う。
- ・「～と思っている」
 - ✓他人の思考（三人称主語）／自分の思考（一人称主語）
 - ・彼は社長はバカだと思っている。
 - ・私は社長はバカだと思っている。（→意味が異なる）

「～と思う」の主語の省略

- ・「～と思う」では主語（一人称）が省略されることも多い
- ・Qさんは死ぬと思う。 [主語→『私』が省略されている]
→ (私は) Qさんは死ぬと思う。
- ・Qさんは死ぬと思っている。 [主語→『Qさん』／第三者]
→ Qさんは (自分は) 死ぬと思っている。
→ (みんな) Qさんは死ぬと思っている。
 - ・『私』の考えを示す場合、主語を省略しないのが一般的
→私は (前から) Qさんは死ぬと思っている。

持論を表わす「～と思っている」

- ・「～と思っている」→一人称主語では持論や信念を表わす
 - ✓私は、語学は反復練習が重要だと思っている。
→単なる意見でなく、持論や信念を表わす場合に用いる
 - ◆持論や信念を表す場合、一人称主語は省略されにくい
- ・今は考えが変わっている場合は「～と思っていた」となる
 - ✓私は、語学は反復練習が重要だと思っていた。
→しかし、現在では違う考えを持っている

意志や希望を表わす表現

- ・「～ようと思う／思っている」→意志を表わす表現
 - ・(私は) もっと勉強しようと思う。 [一人称]
 - ・(私は) もっと勉強しよう思っている。 [一人称]
 - ・彼は、もっと勉強しよう思っている。 [三人称]
- ・「～たいと思う／思っている」→希望を表わす表現
 - ・(私は) 韓国に行きたいと思う。 [一人称]
 - ・(私は) 韓国に行きたい思っている。 [一人称]
 - ・彼は、韓国に行きたい思っている。 [三人称]

一人称の意志や希望を表わす表現

- ・一人称主語で意志や希望を表わす表現の使い分け
 - ・「～よう思っている」の方が考えの継続時間が長い
 - ・「(これから) 帰ろうと思うんだけど……。」
 - ・「(ずっと) 帰ろう思っているんだけど……。」
 - ・「～たい思っている」の方が考えの継続時間が長い
 - ・(いつか) 韓国に行きたいと思います。
 - ・(いつか) 韓国に行きたいと (ずっと) 思っています。
- 「～思っている」は〈思う〉行為の継続時間が長い

人称による表現の違い

	～と思う	～思っている
一人称	○	△ 持論や信念を表わす
二人称	○	○
三人称	×	○

引用節中の時制（テンス）

- 引用節中の文の時制→ことがらの成立／不成立による
- ・雨が降ると思う。→**不成立**（雨はまだ降っていない）
→今は雨ではないがこれから雨になるだろう
- ・雨が降ったと思う。→**成立**（雨が降ってもう止んだ）
→今は雨ではないが、少し前は雨だったろう
- ・雨が降ると思った。→**不成立**（雨はまだ降っていない）
- ・雨が降ったと思った。→**成立**（雨が降ってもう止んだ）
◆「～と思った」では〈思った〉ときが成立の基準

引用節中の相（アスペクト）

- 引用節中の文の相→ことがらの完了／未完了による
 - 雨が降ったと思う。→完了（雨が降ってもう止んだ）
 - 雨が降っていると思う。→未完了（現在継続中）
→ [雨が降る] ことは完了せずに進行中／継続中
 - 雨が降っていたと思う。→未完了（当時継続中）
 - 雨が降ったと思った。→完了（雨が降ってもう止んだ）
 - 雨が降っていると思った。→未完了（現在継続中）
 - 雨が降っていたと思った。→未完了（当時継続中）

引用節中の否定表現

- 否定的な内容を表わす場合は、引用節中の否定が自然
 - △主任は適任だと思いません。
 - ◎主任は適任ではないと思います。
- 文末での「～と思う」の否定→〈思う〉ことを否定する
 - A「主任は立派な人ですね。」
 - B「私はそう思いません。だれもそう思っていません。」
→「思わない」「思っていない」は反論する場合に使う

間接表現としての「～と思う」

- ・「～と思う」 → 断定を避ける間接表現・婉曲表現ともなる
 - ・それではダメだ。 [断定：直接表現]
 - ・それではダメだと思う。 [間接表現]
 - 「～と思う」：主観的判断を示す → 間接表現となる
 - ・「～と思う」 → 聞き手に対する指向性がより強い(積極的)
 - ・それではダメだろう。 (多分失敗するよ) [間接表現]
 - ・それではダメだと思う。 (だからやめろ) [間接表現]
 - 「～と思う」：判断を相手に伝える意味合いがある

間接表現 「～と思う」 の用法

- ・お金がなくて困ったことはないと思う。
 - ・→お金がなくて困ったことはない。
 - ・去年の夏祭りの花火はきれいだったと思う。
 - ・→去年の夏祭りの花火はきれいだった。
 - ・Qさんには期待しない方がいいと思う。
 - ・→Qさんには期待しない方がいい。
 - ・もっと勉強してほしい思います。
 - ・→もっと勉強してほしいです。

「～と思われる」

- ・「～と思われる」 → 自分の判断を一般化して述べる表現
- ・これはQさんには難しい日本語だと思われる。
 - 「～と思う」よりも総合的に判断した印象がある
◆いろいろな条件を合わせて考えた結果という印象
 - 「～と思われる」は結論を述べる際にも使われる
- ・事柄を抽象化する形式名詞「もの」を受けることが多い
- ・経済は緩やかに回復するものと思われる。
 - 「すると思われる」よりもさらに判断が一般化される

～って

＜だけた会話での「～って」

- ・「～と言う／思う」の助詞『と』→「引用の『と』」
 - ・くだけた会話では『と』が『って』となることがある
 - ・日本語の勉強は面倒だって思う。 (→面倒だと思う。)
 - ・終助詞の「な」や「よ」に接続することも多い
 - ・日本語の勉強は面倒だなって思う。
 - ・田中くんが早くしろよって言った。
 - ・『って』は、正式な話しことばや書きことばでは使えない

「～って」の用法

- ・デフレってどういう意味？（「というのは」：同格）
 - ・デフレって言葉知ってる？（「AというB」：同格）
 - ・先生が早く教室に来いって。（「～と言っている」）
 - ・水曜日は忙しいって断られた。（「～と言って」）
 - ・来年、結婚するんだって。（「～だそうだ」：伝聞）
 - ・来年、結婚するんだって？（伝聞の内容を確認する）
 - ・おまえなら大丈夫だって。（意見を強調して伝える）
 - ・叫んだたって聞こえない。（「～ても」：逆接仮定条件）

おわり